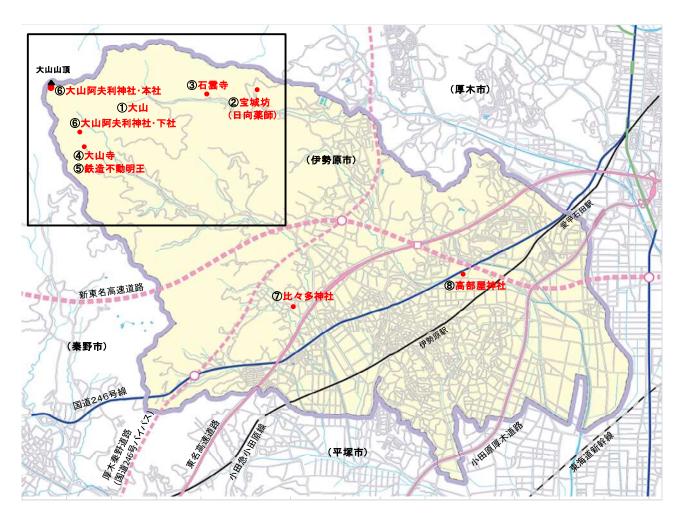
| ① 申請者 | 伊勢原市 | ② タイプ | 地域型 / シリアル型 A B C D E | | | | | | |
|---|------------------------------------|-------|---|--|--|--|--|--|--|
| ③ タイトル | | | | | | | | | |
| | 江戸庶民の信仰と行楽の地 〜巨大な木太刀を担いで「大山詣り」〜 | | | | | | | | |
| ④ ストーリーの株 | 既要(200字程度) | | | | | | | | |
| 大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太力を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。 大山詣りは、今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。 | | | | | | | | | |
| ⑤ 担当者連絡先 | | | | | | | | | |
| 担当者氏名 | | | | | | | | | |
| 電話 | | FAX | | | | | | | |
| E-mail | | | | | | | | | |
| 所在地 | | | | | | | | | |

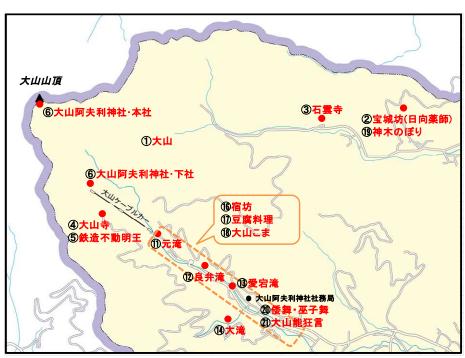
市町村の位置図(地図等)

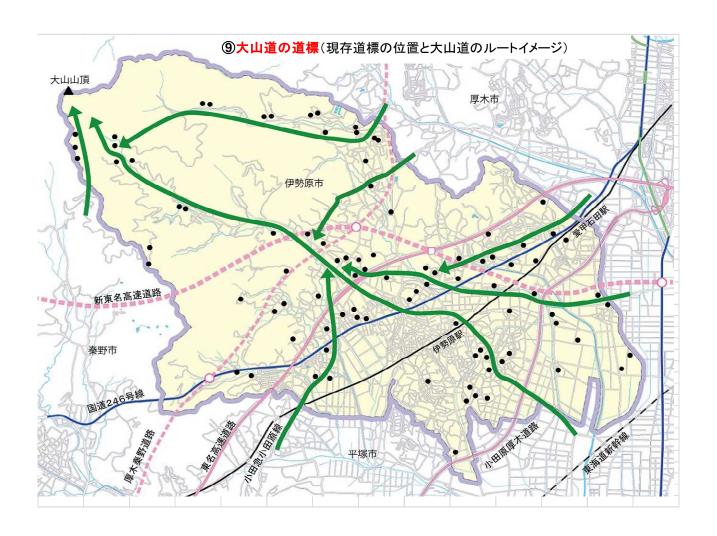




構成文化財の位置図(地図等)







ストーリー

大山への信仰は古く、奈良時代には、霊山寺 (現・宝城坊。通称・日向薬師)、若望寺、大山寺が開かれ、平安時代にまとめられた「延喜式神名・帳」に記される阿夫利神社や比々多神社、高部屋神社

の成立などにより、信仰の地としての姿が整えられていった。大山は別名を「雨降山(あめふりやま)」と呼ばれるなど、雨乞い、五穀豊穣、商売繁盛を願う多くの庶民が「大山詣り」に訪れた。しかしながら、人々を惹き付けたのは神仏の御利益だけではなかった。



1. 大山詣りを仕掛けた御師の生い立ち

戦国時代末期の天正 18 年(1590 年)、豊臣秀吉の軍勢により北条氏が滅ぼされた戦いにおいて、大山の修験者たちは武装し北条氏と共にいた。その後、江戸近郊に僧兵の武装勢力があることに危機感を持った徳川家康は、大山を純粋な信仰の地とするため山内改革を行い、寺領を寄進し経済的な支援をする一方で、修験者や妻帯している僧侶たちを大山寺から追放した。

家康に下山を命じられた者たちはその信仰心を断ち切らず、生き残り策として中腹で神殿を備えた宿坊を営む御師となった。御師たちは、宿坊や土産物屋を営みながら、年に100日以上にわたり関東一円の檀家を廻って御礼を配り、初穂を集め、大山寺に祀られる「木動明王」と山頂に祀られる「若尊大権現」の霊験を広める地道な布教活動に励んだ。

2. 信仰と行楽を兼ね備えた大山詣り

(1) 庶民の遠出を叶えた犬山講

大山は、関東一円どこからもその神秘的な容姿を望むことができ、江戸方面からは富士山とともに眺めることができる。当時、富士詣りも人気があったが、富士へ行くには少なくとも7日を要し、箱根の関所を通る手形が必要な大旅行であった。一方、大山詣りは、関所も通らず、帰りがけに江ノ島や金沢八景を経由しても3日か4日程度といった観光を兼ねた小旅行であった。

しかしながら、いかに江戸から近い大山詣りとはいえ、1人での参拝となると費用の工面は困難であった。そうしたことから、同じ職種の職人同士や今でいう町内会を単位とする大山詣りを目的とした講を組織し、費用をみんなで積立て順番制で大山に向かうといった仕組みを作り上げた。御師たちの熱心な布教もあり、関東一円をはじめ静岡、山梨、長野、新潟、福島に広がり、最盛期には100万戸を超える檀家がいた。

こうして、江戸から距離的に近い利便性と大山の歴史的由緒を生かし、霊験あらたかでありながらも、厳しい修行や戒律を伴わない、気軽な信仰と行楽を兼ね備えたものとして大山詣りはできあがっていった。

(2)納め太刀を担ぎ「いざ!大山へ」

関東一円から大山へと続く道は「大山道」と呼ばれ、江戸を出立した参拝者たちは相模湾を左手にして、はるか向こうの富士山が背後に見える大山を目ざし、要所にたてられた石造りの道標をたどりながら楽しげに歩を進めた。大山講の一行、いわゆる講中が江戸から肩に担いで運んだ巨大な木太刀は、源頼朝が武運長、人を祈願して自分の刀を大山寺に奉納したとされることに由来し、参拝に際して奉納する納め太刀である。庶民による参拝では他に例をみない、唯一大山詣りで行われたものである。



幅広い人々に親しまれた大山であったが、日頃高い所での仕事が多く、遠くに見える大山に特別な感情を抱いていた鳶や大工、火消しといった職人たちでつくる講も多くあった。こうした職人たちは水や石への縁起を担ぎ、「雨降山(あめふりやま)」の名や山頂の「石尊大権現」にあやかって御利益を求め参拝に訪れ、粋にこだわりを持つ講中同士が競い合ううちに納め太刀も徐々に大きくなり、7メートルに及ぶものも奉納されている。また、参拝者の中には、ばくちに負けて借金取りから逃げるように大山詣りをした者もいた。納め太刀には、五穀豊穣、商売繁盛などの願いとともに庶民の武運長久とも言える勝負運を上げる意味も込められていた。

(3) 歌舞伎や浮世絵の題材となった大山詣り

参拝者たちは中腹にある滝に打たれ身を清める滝垢離をしてから登拝する。粋な職人たちにとっての滝垢離は、互いに彫りものを披露し合う大山詣りならではの舞台でもあった。こうした姿をはじめとして大山詣りに多くの人々が関心を寄せていたことから、歌舞伎や浄瑠璃、落語、川柳などに取り上げられ、また、参拝者たちが大山に向かう道中の様子や、歌舞伎役者がふんする彫りもの姿で大きな納め太刀を手にして滝に打たれる姿などを描いた浮世絵が売り出されたこともあり、更に多くの人々の興味や関心を呼び起こし、江戸の人口が100万人であった頃、年間20万人もの参拝者が大山を訪れている。



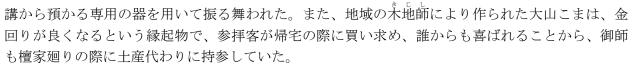


(4) 参拝客をもてなす宿坊と麓の繁栄

参拝の講中を歓待する宿坊は、講の所在地とその名称が刻まれた玉垣に囲まれ、玄関先に並ぶ登拝記念の石碑や奉納された手水鉢、講の名を刻み込んだ板まねきや布に染め抜いた布まねきが御師とのつながりの強さを表し、帰宅した家族さながら講中を出迎える。

御師たちは、参拝客の宿泊から登拝の道案内まで一切の世話をし、 宿坊に備える阿夫利神社の分霊を祀る神殿で、登拝する講中の無事を 祈願した。

大山の名物となっている豆腐料理は、各地の講から奉納された大豆 を利用し地元の清水でつくったのが始まりで、宿坊ごとにそれぞれの



大山の麓も大山詣りの恩恵にあずかり、往来する参拝者を相手とする商いはもとより、宿坊で必要となる布団や履物から日用品、酒や食料品などの取引で繁盛した。

3. 今に息づく庶民信仰と神秘的な魅力

大山詣りは先導師(当地では明治の神仏分離を契機に御師を改称)により脈々と引き継がれ、今も 先導師の道案内で登拝する白装束に身を包んだ大山講の一行や古く

宿坊や参道沿いに軒を連ねる茶店や土産物店では、当時の風情を感じることができ、もともと精進料理であった豆腐料理や猪、山菜といった地元の食材を使った食事も楽しめる。

から伝わる様々な祭事を目の当たりにすることができる。

首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から 眼下に広がる雄大な景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人たち の思いと満足を体感できる。



ストーリーの構成文化財一覧表

| 番号 | 文化財の名称 | 指定等の 状況 | ストーリーの中の位置づけ | 文化財 の所在 地 |
|----|---|-----------------|---|-----------------|
| 1) | ^{おおやま} 大 山 | 未指定 | 都心から約50km、神奈川県の西部、丹沢山地の 東麓に位置する標高1,252mの山。以東には筑波 山まで高い山がないことから、関東一円から山容 を望むことができる。 古くから山岳信仰の地として崇められ、山頂か らは約5,000年前の縄文土器や古墳時代の土器、 祭儀に用いられたと思われる平安時代の鏡など が発見されている。 | _ |
| 2 | りょうぜんじ 霊 山 寺 ほうじょうぼう (現・宝 城 坊。 ひなたやくし 通称・日向薬師) | 国重文(本 堂·建造物) | 霊亀2 (西暦716)年に行基により創建されたと伝わる寺。神仏分離を契機に宝城坊となる。 暦応3 (西暦1340)年鋳造の銅鐘(国重文・工芸品)には、初代の鐘が天暦6 (西暦952)年に村上天皇の発願によって造られたことが記されており、厨子(国重文・建造物)に納められている本尊の鉈彫薬師三尊像(国重文・彫刻)も同時期の作とされる。平安時代末から鎌倉時代にかけての作とされる木造薬師如来坐像(国重文・彫刻)、木造日光・月光菩薩立像(国重文・彫刻)、木造阿弥陀如来坐像(国重文・彫刻)、木造四天王立像(国重文・彫刻)などの仏像も祀られている。 当寺には、源頼朝や妻の北条政子も参拝しており、直径約1.4mの大太鼓(県有形民俗)は頼朝の奉納と伝えられている。 | |
| 3 | せきうんじ 石 雲寺 | 未指定 | 寺伝により養老 2 (西暦 718)年の開創と伝わる 寺。 雨降山の山号をもつ元華厳宗の寺院で、壬申の 乱で敗れた大友皇子を祀る。 | |
| 4 | おおやまでら大山寺 | 未指定 | 大山詣りで納め太刀を奉納した寺。 天平勝宝 7(西暦 755)年に奈良東大寺の長官であった良弁僧正が、聖武天皇の命により開創したとされ、平安時代末の木造不動明王坐像(県重文・彫刻)を祀り、鎌倉時代作の鉄造不動明王像(国重文・彫刻)を本尊とする。 明治の神仏分離までは現在の大山阿夫利神社の下社がある位置にあり、江戸時代には徳川家康、家光ら幕府の後ろ盾により、本堂をはじめとする大規模な建物群が造営されていた。 明治の神仏分離により廃寺となるが、熱心な信者の力により明治時代中頃に本堂が現在の地に再建され、当時は明王寺と称していたが、大正時代になって大山寺として再興された。 | |

| 5 | Tつぞうふどうみょうおう 鉄 造 不 動 明 王 にどうじぞう 及び二童子像 | 国重文(彫刻) | 大山寺の本尊であるこの不動明王への参拝が 大山詣りの目的のひとつであった。 鎌倉時代に願行上人により造られたとされる 鉄仏で、荒々しい力強さが多くの信仰を集めた。 |
|-----|---|---------|---|
| 6 | あ か り じんじゃ 阿夫利 神 社 おおやま あ か り (現・大 山 阿夫利 じんじゃ 神 社) | 未指定 | 山頂に石尊大権現を祀る延喜式神名帳に掲載されている神社で、大山寺とともに、大山詣りの目的地のひとつであった。 長く神仏混淆の状況が続いたが、明治政府の神仏分離政策により大山寺が廃されると、大山寺の不動堂(本堂)跡地に阿夫利神社の下社が建立され、山頂には本社が建てられた。 |
| 7 | ひびたじんじゃ 比々多神社 | 未指定 | 持統 5 (西暦 691)年に相模国の国司がこま犬 (市指定)を奉献したとの伝承があり、相模地域屈 指の副葬品を有する古墳に囲まれるように建つ 延喜式神名帳に掲載されている神社。 |
| 8 | たかべやじんじゃ 高部屋神社 | 未指定 | 延喜式神名帳に掲載されている神社で、平安時 代に大山一帯を含む糟屋荘を支配した、糟屋氏の ゆかりと伝えられている。 |
| 9 | おおやまみち どうひょう大山道の道標 | 未指定 | 各地からの参詣者を大山へと導いた石造りの 道標。側面には「大山道」と彫り込まれ、大山に ちなんで不動明王を載せているものもある。 大山へと向かう道は、柏尾通り大山道、田村通 り大山道など、主要なものだけでも8~10のルー トがあったとされる。現在も、市内には多くの道 標が残されている。 |
| (1) | ^{おさ だち} 納 め太刀 | 未指定 | 大山詣りに講中が江戸から担いでくる木太刀。 源頼朝が武運長久を祈願して自分の刀を大山寺 に奉納したとされることに由来し、この木太刀に 願いを書き、大山寺や山頂の石尊大権現に奉納し た。 木太刀は当初 30 cmほどであったが、中には 7 mを超えるものも納められるようになった。 |
| 11) | もとだき 元 滝 | 未指定 | |
| 12 | ろうべんだき 良弁滝 | 未指定 | 大山詣りでは、大山山内に数箇所ある滝で滝垢 離を行い、身を清めた後に登拝することがならわ |
| 13 | at ごだき 愛宕滝 | 未指定 | しであった。 現在も、当時、滝垢離で使われた滝が残されて いる。 |
| 14) | ^{おおたき} 大滝 | 未指定 | |

| (15) | おおやま 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 | 未指定 | ○歌川広重「五十三次名所図会七南期(湖)左り不二」安政2(西暦 1855)年 = 東海道から見える富士山と大山が描かれている。 ○前北斎為一(葛飾北斎)「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」文政末頃 = 良弁滝での滝垢離の様子が描かれている。 ○五雲亭貞秀「相模国大隅郡大山寺雨降神社真景」安政5(西暦 1858)年 = 大山の入口から山頂石尊社までの大山寺境内地と、さらに富士山、高尾山、江ノ島、伊豆半島など、大山から見える名所を描いている。 ○五雲亭貞秀「大山良弁図」元治元(西暦 1864)年 = 参詣者の滝垢離でにぎわう良弁滝の様子が描かれている。 ○武部門芳虎「大山石尊大権現(仮題)」文久2(西暦 1862)年 =大山を背景に、中央に鈴を持った歌舞伎役者の中村芝翫、右に提灯を掲げた坂東彦三郎、左に「石尊大権現」と朱文字で書かれた木太刀を持つ河原崎権十郎が描かれている。 ○歌川豊国「大當大願成就有が瀧壷」文久3(1863)年 = 「奉納大山石尊大権現 大天狗 小天狗 天下泰平国土安穏講中安全」と書かれた大きな木太刀を持つ男など、7人の役者がふんする粋な参拝者が滝が開業する姿を描いている。 ○豊原国周「見立水滸傳當瀧壷」慶応3(西暦 1867)年 = 歌舞伎役者の市川団十郎が滝を背景に諸肌脱いて、納め太刀を持った姿が描かれている。 ほか | |
|------|--|-----|---|--|
| (16) | 参道沿いに建てら ^{しゅくぼう} れた 宿 坊 | 未指定 | 大山講中を宿泊させた宿屋で、御師(現在の先 導師)の自宅を兼ね、屋内に阿夫利神社の分霊を 祀る神殿が設けられているのが特徴である。 宿坊は、大山の参道沿いに今も残り、現在まで 脈々と引き継がれている大山講の講中の宿泊は もとより、一般の来訪者にも宿や食事を提供して いる。 | |
| 17) | 豆腐料理 | 未指定 | 各地の大山講中から寄進された大豆を利用し、 大山の清水で作った豆腐の料理が参拝客に振る舞 われた。 もともとは精進料理であったが、現在では現代 風な調理を取り入れた地元の名物として定着し、 来訪者に提供されている。 | |

| 18) | 大山こま | 未指定 | 金回りが良くなるという縁起物で、大山の木地 師により製作された大山土産のひとつ。現在も大 山の代表的な土産物である。 | |
|-----|---|-----------|--|--|
| 19 | ほうじょうぼう 宝 城 坊 (日向薬 しぎ 師)の「神木のぼり」 | 未指定 | 修験者が修行のための入山前後に行う儀式で、 現在も宝城坊の春の例大祭において再現されている。 修験者たちが斧や弓で周囲を清めた後、5mほどのシイの木に登って安全祈願の書状を読みあげる。木から降りると護摩を焚き、火渡りが行われる。 | |
| 20 | おおやまあ ふりじんじゃ 大山阿夫利神社 やまとまい みこまいの 倭舞・巫子舞 | 県無形民俗 | 奈良春日大社伝承の舞で、現在も大山阿夫利神 社の秋季例大祭などで奉納される。 | |
| 21) | おおやま あ か じんじゃ 大 山 阿夫利 神 社 のうきょうげん の大山能 狂 言 | 市指定(無形民俗) | 大山に江戸時代から伝わる伝統芸能で、300 年 を超える今も大山能楽社保存会により引き継が れ、大山阿夫利神社の秋季例大祭などで奉納され る。 | |

構成文化財の写真一覧

①大山



②霊山寺(現・宝城坊)



②霊山寺(現・宝城坊の木造薬師如来両脇侍像)



②霊山寺(現・宝城坊の厨子)



③石雲寺



④大山寺



⑤大山寺(鉄造不動明王及び二童子像)



⑥阿夫利神社(現·大山阿夫利神社·下社)



⑥阿夫利神社(現·大山阿夫利神社·本社)



⑦比々多神社



⑧高部屋神社



⑨大山道の道標



⑩納め太刀



⑩納め太刀



⑪元滝



12良弁滝



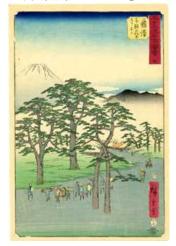
①愛宕滝



14大滝



うたがわひろしげ ⑤浮世絵:歌川広重「五十三次名所図会 七南期(湖)左り不二」 安政 2(1855)年



⑤浮世絵:前北斎為一(葛飾北斎)「諸国 瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」文政末頃



じ浮世絵: 五雲亭貞秀「相模国大隅郡大山寺雨降神社真景」安政 5 (1858) 年



じ浮世絵:五雲亭貞秀「大山良弁図」元治元 (1864) 年



⑤浮世絵:歌川芳虎「大山石尊大権現(仮題)」文久 2(1862)年



うたがわとょくに ⑤浮世絵:歌川豊国「大當大願成就有が瀧壷」文久 3 (1863)年



⑤浮世絵:豊原国周「見立水滸傳 當瀧壷」慶応 3 (1867) 年





16宿坊(玉垣)



16宿坊(板まねき)



16宿坊(布まねき)



16宿坊(神殿)



⑪豆腐料理



⑱大山こま



⑨宝城坊(日向薬師)の「神木のぼり」



⑩大山阿夫利神社の「倭舞」



⑩大山阿夫利神社の「巫子舞」



②大山阿夫利神社の「大山能狂言」



(注)写真は「能」

②大山阿夫利神社の「大山能狂言」



(注)写真は「狂言」

日本遺産を通じた地域活性化計画

| 認定番号 | 日本遺産のタイトル |
|------|--------------------------------|
| 2 4 | 江戸庶民の信仰と行楽の地~巨大な木太刀を担いで「大山詣り」~ |

(1) 将来像(ビジョン)

本日本遺産事業は、平成29年度に策定した伊勢原市第5次総合計画後期基本計画(平成30年度~令和4年度)において、「日本遺産大山詣りを活用した誘客促進」と位置付け、観光施策に取り組んできました。また、令和3年に作成し、文化庁長官の認定を受けた伊勢原市文化財保存活用地域計画(令和3年度から令和9年度)にも、日本遺産に関わる取組を位置付けました。同計画では、本市の歴史文化の特徴を捉え直し、いくつかのテーマ別の文化財群を設定した上で、日本遺産「大山詣り」を本市の歴史文化を代表するストーリーとしつつ、他の文化財群との関連付けによる発展的な可能性についても示しました。本市の文化財保護の目指す方向性を「歴史文化の適切な継承とまちづくりへの活用」と定め、文化財の「調査」「保存」「活用」「人材育成」の全てに関わる重要な取組として、日本遺産に関する取組を列記しています。本市にとって日本遺産は、「歴史文化を観光事業にいかし、地域活性化へつなげていくために重要であり、これを土台にしてより多角的な事業展開へ結びつけていく」としています。

この様な行政の中長期計画への位置付けに基づき、文化財の保存と活用を「信仰と行楽」として、地域における文化財の継承と賑わいの創出に向けて事業を進めていきます。

既に「信仰と行楽」の素地を持つ大山地区は、構成文化財である「宿坊」をいかした宿坊体験型教育旅行で造成した「大山詣り体験」をはじめとした各種体験の取組みを進め、文化財を活用した着実な来訪者の増加を図るとともに、地域資源の更なる磨き上げと受入れ環境整備を進めていきます。また、「信仰」の観点から多くの要素をもつ「比々多地区」「日向地区」の構成文化財では、新たにサブストーリーの造成を進め、「行楽」の要素となる体験コンテンツを各エリアで造成して、大山地区を含めた周遊の仕組み作りにより、「信仰と行楽の地」を目指します。

構成文化財においては、これまでの活用による文化財への影響などを検証しつつ、活用による効果を市民や地元の事業者へ発信することで、構成文化財の経済的な価値の再認識を図り、文化財の地域への経済効果と市民のシビックプライドが、各構成文化財の保存活動に繋がり、文化財の保存と活用が循環した姿を「信仰と行楽」の地で、具現化することを目指します。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①:地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A: 体験コンテンツの体験者数

| 年度 | 実績 | | | 目標 | | |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 十戌 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 |
| 数值 | 164 人 | 875 人 | 736 人 | 1000 人 | 1500 人 | 2000 人 |
| 指標・目標値の設定の 大山地区4件と比々多地区 1 件の体験コン | | | | | 験コンテンツ | ソ体験者数を |
| 考え方及び把握方法 実績とし、新規コンテンツも含めての体験者数を指標とする。 | | | | | 標とする。 | |

目標①:地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B:インバウンド来訪者数の推移

| 年度 | 実績 | | | 目標 | | |
|------------|----------|------------------------------|------------|--------|--------|--------|
| | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 |
| 数值 | 1, 424 名 | コロナで 中止 | コロナで 中止 | 300 名 | 500 名 | 700 名 |
| 目標値の設定の考え方 | | 多客期の大山インフォメーションセンターでの外国人観光客の | | | | |
| 及び把握方法 | | 案内人数を指標とⅠコロナ前の半分まで回復を目指す。 | | | | |

目標②:地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A:シティプロモーション推奨度アンケートの日本遺産に対する回答

| | | 実績 | | | 目標 | | |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 年度 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | |
| | 数值 | 14% | 17% | 集計中 | 23% | 25% | 25% |

目標値の設定の考え方 及び把握方法

市内在住者を対象とした「伊勢原に住んでよかったと思うところ」の複数回答の「日本遺産のまちに選ばれた」割合を指標とし、回答者の25%に達する数を目指す。

| 目標③:日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること | | | | | | | |
|-------------------------------|--------|---|--------|--------|--------|--------|--|
| 指標③-A:宿坊体験型教育旅行の地元経済への効果 | | | | | | | |
| 左 | | 実績 | | 目標 | | | |
| 年度 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | |
| 数値 | 0 万円 | 274 万円 | 260 万円 | 383 万円 | 479 万円 | 575 万円 | |
| 目標値の設定の考え方及び把握方法 | | 教育旅行の地元への経済効果を指標とし、学校数(1 校 100 名想定)が増加することを目指す。 ※平均単価 9591 円×100 人ずつの増加率 | | | | | |

| 目標④:日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------|------------------------------|---------|--------|--------|--------|--|--|
| 指標④-A:販売収入1%還元制度を活用した文化財の保護周知件数 | | | | | | | | |
| 年度 | 実績 | | | 目標 | | | | |
| 干及 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | | |
| 数值 | O件 | O件 | 1 件 | 2件 | 3件 | 4 件 | | |
| 目標値の設定の考え方 | | 販売収入1%還元制度を活用した保護周知件数の合計件数を指 | | | | | | |
| 及び把握方法 | | 標とし、毎年 | ₹1件ずつ実カ | 拖することを | 目指す。 | | | |

| 目標⑤:地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること | | | | | | | |
|-----------------------------|----------------|--------|-------------------|--------|---------|-----------|--|
| 指標⑤-A:伊勢原市への入込み客数 | | | | | | | |
| 年度 | | 実績 | | 目標 | | | |
| 平皮 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | |
| 数値 | 199 万人 | 133 万人 | 集計中 | 186 万人 | 195 万人 | 200 万人 | |
| | と定の考え方 2握方法 | | D入込観光客類 することを目 | | 、コロナ前の糸 | 5 200 万人に | |

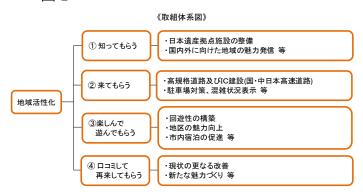
(3) 地域活性化のための取組の概要

1 成果と課題整理

これまでの取組では、図1で示した取組体系を基本として、日本遺産のブランドをいかしたまちづくりを、当初より観光への意識の高い「大山地区」をフックとして進めてきました。特に、①、②にあたる文化資源の PR 物品の作成や観光案内看板の設置など観光資源化に向けた取組を進め、市の日本遺産担当部署を観光部門に移行するなど、「観光資源」としての文化財の価値を所有者及び市民に根付かせる意識醸成に取組んできた成果が出ています。また、③にあたる構成文化財を活用した各種体験コンテンツをパッケージとした「宿坊体験型教育旅行」の制度を日本遺産認定当時から企画立案を行い、平成 30 年 (2019年)から実際に事業化し、日本遺産のストーリーを活用した新商品開発と合わせて、本日本遺産の軸となる2つの事業を確立し推進してきました。これにより、図1の4つのサイクルの中でも、主に①~③の取組を中心にして成果を得られています。また、構成文化財においては、来訪者の増加に合わせて、安全性や利便性を向上するための参道整備や手すりなどの導線を中心とした整備を日本遺産協議会と連携して進めています。

一方で、事業の後半にあたる令和2年(2021年)及び令和3年(2022年)は、コロナ禍での事業実施となったことから、十分な実績確認やフォローアップを実施することが出来なかったこともあり、④は喫緊の課題であると認識しています。また、大きく3エリアで魅力的な構成文化財を抱えている本日本遺産では、回遊性の向上に向けて各地区の魅力のアピールに取り組んできましたが、地区同士を繋ぐ交通アクセスの課題や日帰り観光が多いことなどから、十分な効果を発揮できておらず、今後の課題として認識しています。

図 1



2 取組の柱について

今後の3年間の取組としては、現在進めている「宿坊体験型教育旅行」、「うまいものセレクトブランドの推進」及び「伊勢原歴史アドバイザー養成」の3つの事業を柱にしつつ継続した観光客等受入れ環境整備を進めていきます。

(1) 文化財を次世代に繋ぐ体験事業

宿坊体験型教育旅行を全国の中学校を中心として誘致し、これまで構築してきた日本遺産ストーリーを体験できる仕組みのを継続していきます。当初からターゲットとしている東北地方、東海地方への誘致活動を進めると共に、実績のある県内の事例を基にフォローアップを行い、受入れ環境を強化します。また、サブストーリーの造成や体験コンテンツの拡充を進め、市内の学校におけるシビックプライドの

醸成への活用やワーケーション・MICE への応用を進めると共に、各団体が行っている宿坊の浄書体験やとうふ作り体験などの一般向けの体験がより手軽に行える仕組み作りを目指します。これにより、文化財所有者や観光事業者を活性化させるとともに、体験者の心に残る体験を広げることで、今後自主的に旅に出るときの再来訪に繋げる長期的なリピーター創出施策として進めていきます。

(2)「うまいものブランド」を活用した新商品開発事業及び販売収入文化財還元制度 観光客に土産で日本遺産のストーリーや伊勢原らしさを伝えることを目的に創設 した「日本遺産のまち いせはらうまいものセレクト」のブランド強化を進めます。

本来、大山詣りは講の代表者による代参を基本としており、参拝者が土産物を地元に持ち帰り講員にも配ったとされています。またそのために御師は大山独特の土産を用意していました。これらの背景をストーリーの一つとして、本日本遺産らしさや各構成文化財の要素を生かした新商品を開発する「いせはらうまいもの遺産創造委員会」では地元商業者が地域プロデューサーとなり、継続的に新商品の開発を実施し、うまいものセレクトへの認定と販売収入文化財還元制度の対象となる商品の拡充に取組みます。

(3) 歴史観光案内人材育成事業

いせはら歴史アドバイザー養成講座を継続して実施することで、日本遺産の魅力を 次世代に伝える人材を育成します。また、インバウンド観光客の回復を見越して、「大 山地域通訳案内士制度」により、日本遺産を多言語で案内できる人材を創出しつつ、 観光事業者や民間事業者と案内人材をマッチングする仕組みを検討し、育成人材が活 躍できる場の創出を目指します。

合わせて、日本遺産の構成文化財の継承を図るため、親子や中学生を対象とした体験教室を開催し、「大山能」や「倭舞・巫子舞」といった無形民俗文化財の後継者育成を図ります。

(4) 観光客受入れ環境整備

文化資源の PR や観光案内の設置などを継続して検証、実施していくとともに、各構成文化財所有者において文化財の活用上課題となっている点など調査し、受入れ環境の整備を進めていきます。

また、大山バイパスや新東名高速道路の延伸など、自家用車の利用などが増え、回 遊性が向上することも想定される一方で、駐車場の問題なども喫緊の課題として認識 していることから、パークアンドライドの検討などを継続して検討していきます。

(4) 実施体制

日本遺産認定を契機に設置された「伊勢原市日本遺産協議会」を中心として、その構成 員はもとより、地域で活動している文化財関連団体、観光事業者、教育機関、民間事業者 との連携を密に本日本遺産事業を推進します。

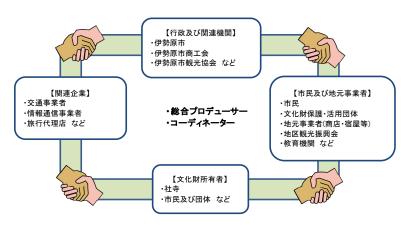
観光事業においては、市内の観光事業者との関わりの強い「伊勢原市観光協会」を中心に、教育旅行事業や旅行事業者と連携した着地型ツアーの企画を行います。また、地元商業者が中心となった「うまいもの遺産創造委員会」では、構成文化財所有者のストーリーを抽出した商品開発を継続して実施していきます。関連事業としては、市内の「公共交通事業者」である小田急電鉄(株)、神奈川中央交通(株)、大山観光電鉄(株)を中心に、観光客の利便性向上のための取組を進めていきます。

他方、文化財保護においては、観光事業へ活用する際に所有者や教育委員会と連携により日本遺産の取組が、文化財へ負担にならないように配慮しつつ、必要な整備を検討します。その費用の一部には、新商品開発で創出された販売収入文化財還元制度により賄うことを目指し、構成文化財所有者のみが負担するのではなく地域で保護と活用が循環する仕組みを目指します。

伊勢原市日本遺産協議会は上記に示した観光事業及び文化財保護の双方の活動について、図2に示すカテゴリを越えた連携のためのコーディネーターの役割を果たし、各団体が実施する事業のPR や事業支援を行政と連携して行っていきます。

図 2

《日本遺産を活用した地域活性化推進体制のイメージ》



[人材育成・確保の方針]

うまいもの創造委員会で日本遺産の魅力や地元の魅力を共有することで、新商品開発の 主体となるプロデューサーの開拓を進めると共に、市外への教育旅行の誘致や観光 PR を 通じて、新たな観光事業者や旅行事業者へのアプローチを行い、プロデューサーの創出を 目指します。

一方、プレーヤーとして文化財ガイドと観光ガイドへの日本遺産の紹介や地域通訳案内 士制度の導入などにより既存のガイドのスキルアップと人材の新規育成を進めます。人材 活用においては、それぞれの団体においてガイド受付などを行っており、一般観光客が利 用するにはハードルが高いこともあるため、地域通訳案内士制度の導入に合わせて、人材 の活用に向けた各窓口の紹介や一元的な予約フォームの構築を目指します。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産の取組を行う「伊勢原市日本遺産協議会」は日本遺産を活用した継続的な事業 展開を図りつつ、観光事業者、構成文化財所有者、民間事業者が直接的な利益を得られる 仕組みを作り、各事業の自走化を目指しています。なお、協議会の事務経費については、 当面は、市の補助金などを活用して事業を推進し、引き続き取組を進めていきます。

各事業の自走化に向けた具体的な取組検討は次のとおりです。

(1) 教育旅行事業の自走化

既に教育旅行は観光事業者である伊勢原市観光協会により運営されており、伊勢原市日本遺産協議会では誘致のための営業活動を担っています。将来的には、営業活動を収益の中で行うなど、完全な自走化を目指します。

(2) 販売収入文化財還元制度の拡充

うまいものセレクトブランドの認知度拡大や、文化財の周知により本制度の趣旨に賛同する事業者を増やし、文化財の保護・周知に係る費用の捻出を目指します。 周知が行き渡ることで、事業者の収入が更に拡大し、それに比例して、文化財保護 周知の取組に活用できる寄付金や企業による地域貢献活動の循環を目指します。

(3)協議会での収益を伴う自主事業を展開

現在は、市の補助金により実施していますが、うまいもの遺産創造委員会の新商品をふるさと納税の対象とするなど間接的に市の財政へ還元するとともに、「納め太刀」(50 cm程度の登拝奉納用)の卸販売や日本遺産紹介サイトへの企業広告掲載など自主事業を展開することで、市の補助金のみではなく、多面な収入源の確保を目指して仕組みを検討します。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

本日本遺産では、構成文化財の保存と活用の好循環に向けて、次のとおり取組んでいきます。

(1) 販売収入文化財還元制度の活用

日本遺産ブランドを活用した新商品が歴史文化資源の活用であることを念頭におき、販売収入の 1%を文化財の保護・周知に還元することで、文化財の持続的な保存と活用を目指します。

(2) アプリ等を活用した文化財の周知と展示方法の検討

文化財の保護の観点から、修理や調査時にデジタルデータの収集を積極的に進め、デジタル博物館やアプリの活用などにより、文化財の展示などによる経年劣化を抑えつつ、観光資源として多角的に活用する方法を検討します。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1組織整備

| (事業 | 番号 | 1 — | A) |
|-----|----|-----|----|
| | | | |

| (事業 | (事業番号1一A) | | | | | |
|------|----------------------|------|------------|-------------------------------|---------------|--------|
| Ī | 事業名 日本遺産を支える団体の組織運営 | | | | | |
| | 概要 | | 文化財保護、 | 観光振興の各団体の事業支援を! | 実施する。 | |
| | | | | | | |
| | | 取 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 |
| | 伊勢 | 原市 | 日本遺産協議 | 日本遺産ブランドの総括を行い、 | 地域活性化 | 伊勢原市日 |
| 1 | 会の | 運営 | | 計画の進捗管理及び新規事業者の関 | 昇拓や日本遺 | 本遺産協議 |
| | | | | 産の市外への PR に取り組む。 | | 会 |
| | 平成 | 大山 | 講プロジェク | 「神奈川県の第四の核」として大山 | 山地域が選定 | 平成大山講 |
| 2 | ト推 | 進協詞 | 議会 | されており、厚木市、秦野市、地元 | 団体、民間事 | プロジェク |
| | | | | 業者と連携して丹沢大山地区の観光 | 比地としての | ト推進協議 |
| | | | | 整備に取り組む。 | | 会 |
| | | 事業 | 者との連携施 | 伊勢原市内の唯一の公共交通事業 | 美者である小 | 伊勢原市日 |
| | 策 | | | 田急グループと、丹沢大山フリー/ | パスや季節に | 本遺産協議 |
| 3 | 3 | | | 合わせた誘客施策との連携を進めるとともに、 | | 会 |
| | | | | 沿線観光地としてのブランドカ強化に取り組 | | 公共交通事 |
| | | | | む。 | | 業者 |
| | | | 者への活動内 | うまいもの創造委員会の参加者を増やし新商 | | 伊勢原市日 |
| | 容の | PR 及 | び参画依頼 | 品の開発力を強化するとともに、E | 本遺産協議 | |
| 4 | | | | 組を通じた事業者向けの売り込みを実施する。 | | 会 |
| | | | | | | うまいもの |
| | | | | | | 遺産創造委 |
| - | _ | | - | ± ₩ =7 / m + l· , 1 m | ☆ ## | 員会 |
| 2014 | • | | = | 事業評価指標 | 美 稹但 | ・目標値 |
| 2019 | | 日本 | 遺産に係る取締 | 組への民間事業者の | | |
| | 0年 | 参加 | 団体数 | | <u> </u> | |
| | 1年 | | 人衆体の名字 - | た始めま | 28 団体 | |
| | 2022 年 民間企業等の参画で | | | | 30 団体 | |
| | 2023 年 民間企業等の参画を | | | | 32 団体 | |
| | | | 34 団体 | 0F T.III | | |
| | 事業費 | | 2022 年: 25 | | | |
| | に向い | | | 施される日本遺産事業を魅力ある | | |
| 事 | 業設語 | i⊤ | | て日本遺産事業が収益を生み出 造産の魅力を高めて行く | りものとし | し認誠される |
| | | | ように、ロ本 | 遺産の魅力を高めて行く。 —————— | | |

(7) -2 戦略立案

(事業番号2-A)

| 3 | 事業名 | 観光と文化財の共生戦略の検討 | | | | |
|------|------------------------------------|----------------|-----------|------------------------|---------------|--------|
| | 概要日本遺産の新たな魅力の創出 | | | 新たな魅力の創出事業を実施す | る。また新規 | 事業の補助金 |
| | | | などの検討を | 行い、新たな魅力の創出に向け | た調査検討る | と行う。 |
| | | 取 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 |
| | 観光 | 観光客等受入れ環境整 | | 令和3年までに整備を実施した鼠 | 箇所のフォロ | 伊勢原市日 |
| 1 | 備に「 | 向けた | た調査及び計 | ーアップを行うとともに課題を整理 | 里して、新た | 本遺産協議 |
| | 画 | | | な整備計画を策定する。 | | 会 |
| | 旅行 | 事業 | 者や鉄道事業 | ヒアリングを実施することにより | り、旅行商品 | 伊勢原市日 |
| 2 | 者への | カマ- | ーケティング | や利用者のニーズを把握し、受入材 | ι環境整備や | 本遺産協議 |
| | | | | 体験コンテンツの計画に反映する。 | | 会 |
| | 伊勢原 | 原市 | 文化財保存活 | 地域計画内に、日本遺産の取組る | を位置付けて | |
| 3 | 用地均 | 域計ī | 画と連携した | おり、他の事業との連携を図りつつ | 、地域計画を | 伊勢原市 |
| | 取組 | | | 活用した取組の検討を進める。 | | |
| | サブス | ストー | -リーの構築 | 各構成文化財のストーリーを再構築して、各 | | 伊勢原市日 |
| | | | | 構成文化財のサブストーリーの造成に向けた取 | | 本遺産協議 |
| 4 | | | | 組を進める。既存の体験コンテンツと合わせて、 | | 会 |
| | | | | 一元的に予約や紹介の出来る窓口の検討を進め | | 構成文化財 |
| | | | | る。 | | 所有者 |
| ' | Ŧ. | | = | 事業評価指標 | 実績値・目標値 | |
| 2019 | | | | | 3件 | |
| 2020 | 0 年 | サブ | ストーリーの作 | 本験コンテンツの合計数 | 3 件 | |
| 202 | 1 年 | | | | 3 件 | |
| 2022 | 2022 年 サブストーリーの整理 | | <u>隆理</u> | 3 件 | | |
| 2023 | 2023 年 体験コンテンツ化 1件 4件 | | 4 件 | | | |
| 2024 | 2024年 体験コンテンツ化 1件 5件 | | | | | |
| | 事業費 2022 年: O 円 2023 年: 50 万円 2024 | | | 2024 年: | | |
| | に向け | | | リーの再構築を協議会で進め、新 | | 対象とする体 |
| 事 | 事業設計 験コンテンツの造成により継続した事業を推進する。 | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

(7) -3 人材育成

(事業番号3-A)

| | 事業名 | | | 人材育成事業 | | | |
|-------------------------|--|-----|---------|-----------------------|---------------|-------------|--|
| | 概要 | | 既存の歴史ア | ドバイザーや観光ボランティア | のスキルを高 | 島め、国内外の | |
| | | | 観光客へ日本 | 遺産のストーリーを案内できる。 | 人材育成を近 | 進める。 | |
| | | 耵 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 | |
| | いせ | はら | 歴史アドバイ | 市内の文化財の保存・活用に向い | ナた人材育成 | | |
| | ザー | 養成 | 講座 | のため、2年間講座で文化財調査の | の基礎知識や | | |
| 1 | | | | 伊勢原の歴史、アドバイザーとして | ての話し方講 | 伊勢原市 | |
| | | | | 座等を中心としたカリキュラムを写 | 実施し、いせ | | |
| | | | | はら歴史解説アドバイザーの認定を | 行う。 | | |
| | 日本 | 遺産 | ガイド養成講 | いせはら歴史解説アドバイザーの | Dスキルアッ | 伊勢原市日 | |
| 2 | 座 | | | プ講座を日本遺産の語り部に必要な | よスキルの取 | 本遺産協議 | |
| | | | | 得を目的に実施する。 | | 会 | |
| | 大山 | 地域: | 通訳案内士制 | 令和元年に策定した育成等計画で | | | |
| 3 | 度 | | | 域の観光資源の魅力を伝える「大L | 伊勢原市 | | |
| | | | | 内士」の育成講座を実施する。 | | | |
| | 歴史 | 観光 | 案内人材の周 | 大山地域通訳案内士の認定に合わせて、日本 | | 伊勢原市日 | |
| 4 | 知に | 向けた | た取組 | 語案内、英語案内のそれぞれの人材をデータベ | | 本遺産協議 | |
| - | | | | 一ス化して、関係する旅行代理店などへ情報提 | | 会 | |
| | | | | 供や窓口の一元化の検討を行う。 | | | |
| 左 | Ŧ | | = | 事業評価指標 | 実績値・目標値 | | |
| 201 | 9年 | | | | 制度創設 | | |
| 202 | 0 年 | 大山 | 地域通訳案内: | Lの養成人数 | コロナで中 | 止 | |
| 202 | 2021 年 | | | コロナで中 | | で中止 | |
| 202 | 2022 年 大山地域通訳案内 | | 地域通訳案内 | 士の養成数 10 名 10 名 | | | |
| 202 | 2023 年 大山地域通訳案内 | | 地域通訳案内: | 上の養成数 10名 | 20 名 | | |
| 2024年 大山地域通訳案内士の養成数 10名 | | | 30 名 | | | | |
| 3 | 事業費 2022 年:700 万円 2023 年:700 万円 2024 年:700 | | | |) 万円 | | |
| 継続 | 継続に向けた 国内外のガイド人材養成を進め、合わせて着地型ツアー | | | | | の造成を進め | |
| 事 | 事業設計 ることで、ガ | | | イド人材のニーズを高め、人材育 | 育成と人材活 | 用の両立を目 | |
| | | | 指す。 | | | | |
| | | | | | | | |

(7) -4 整備

(事業番号4-A)

| | 美番号 | 4 — | A) | | | |
|----------------------------|----------------------------|------|----------|-------------------|---------------|----------|
| 4 | 事業名 日本遺産「大山詣り」観光客等受入れ環境整備 | | | | | |
| | 概要構成文化財における観光客の受入環境整備 | | | における観光客の受入環境整備 | について問 | 題点を洗い出 |
| | | | し、市域全体 | での効果的な整備を行う。 | | |
| | | 実施主体 | | | | |
| | 構成 | 文化! | 財所有者によ | 令和4年度に調査検討する整備詞 | †画を基に、 | 伊勢原市日 |
| (1) | る観 | 光客 | 等受入れ環境 | 活用できる補助金などを検討し、名 | S構成文化財 | 本遺産協議 |
| | 整備 | の取約 | 祖 | の参道整備や敷地内の導線整備なる | どの活用に向 | 会(構成文化 |
| | | | | けた受入れ環境整備を実施する。 | | 財所有者) |
| | 市内 | の観: | 光客等受入れ | 令和4年度に調査検討する整備詞 | 十画を基に、 | |
| 2 | 環境 | 整備の | の取組 | 構成文化財までの導線整備を中心に | こ、案内看板 | 伊勢原市 |
| | | | | や解説板などの受入れ環境整備を実 | €施する。 | |
| | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 左 | Ę. | | Ę | 事業評価指標 | 実績値 | ・目標値 |
| 201 | 9年 | | | | 4 施設 | |
| 202 | 0年 | 環境 | 整備を行った権 | 構成文化財の計画数 | 3 施設 | |
| 202 | 1年 | | | | 5 施設 | |
| 202 | 2年 | フォ | ローアップ・新 | 新規ニーズの調査検討 | 調査・計画 | Ī |
| 202 | 3年 | 事業 | 実施 | | 3 施設 | |
| 202 | 4年 | 事業 | 実施 | | 3 施設 | |
| 1 | 事業費 | Ì | 2022年: 0 | 万円 2023 年: 300 万円 | 2024 年 | : 300 万円 |
| 継続 | に向 | けた | これまでの | 整備のフォローアップとして来 | 訪者のニー | ズの調査検討 |
| 事 | 業設 | 計 | を進め、構成ス | 文化財所有者や市で効率的な整備 | 請を補助金な | ども活用して |
| 進める。また所有者が不明瞭な構成文化財などは、販売場 | | | どは、販売収 | 入文化財還元 | | |
| | | | 制度を活用し | て、文化財の保存整備に繋げて | いく。 | |
| | | | | | | |

(7) -5 観光事業化

(事業番号5-A)

| | 事業名 | | 「うまいもの | | 及び開発事業 | É | |
|--------------------------------|----------------------------------|------|----------------------|-----------------------------|-----------------|--------------|--|
| | 概要 | | | まちを PR するために「うまいも | | | |
| | の活用とともに、日本遺産ブランドを生かした新商品の開発を進める。 | | | | | | |
| | | 取 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 | |
| | 日本 | 遺産 | ブランド新商 | 日本遺産のストーリーを生かした | -新商品を市 | うまいもの | |
| 1 | 品開 | 発事 | 業 | 内事業者主導で開発し、うまいも <i>の</i> | つセレクトの | 遺産創造委 | |
| | | | | 商品化及び文化財還元制度を推進す | ⁻ る。 | 員会 | |
| | うま | いも | のセレクトを | 日本遺産の観光 PR や文化財イベン | ントの実施、 | 伊勢原市日 | |
| | 活用 | した | 市内外におけ | 浮世絵刷り体験キットや納め太刀の | ンレプリカを | 本遺産協議 | |
| 2 | る観 | 光 PR | 及び物販 | 活用した大山詣り体験コーナー、う | うまいものセ | 会 | |
| | | | | レクトの物販販売により、日本遺産 | の PR を推進 | 伊勢原市観 | |
| | | | | する。 | | 光協会 | |
| | MICE | . д. | ニークベニュ | インバウンド需要の回復を見据え | たて、既存の | 伊勢原市日 | |
| 3 | 一の | 造成 | | 体験コンテンツやサブストーリー <i>の</i> | O新規コンテ | 本遺産協議 | |
| 3 | | | | ンツを活用して、民間事業者のツア | 7一創出の支 | 一个退性励硪 一会 | |
| | | | | 援を行う。 | | 五 | |
| | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 白 | F | | = | 事業評価指標 | 実績値・目標値 | | |
| 2019 | 9年 | ㅁ⋆ | 書 帝朗浦で悶る | 発された商品・サービス数 | 13 商品 | | |
| 2020 | 0年 | - | | もられた。同品・ケービへ数 ト遺産関連商品作成数 | 15 商品 | | |
| 202 | 1年 | 上じりし | 未付によるログ | 个 退在闵廷问如 1-1火数 | 17 商品 | | |
| 2022 | 2年 | 商品 | の新規開発 1 | 件 | 18 商品 | | |
| 2023 | 2023年 商品の新規開発 1 | | | 件 | 19 商品 | | |
| 2024年 商品の新規開発 1件 | | | の新規開発 1 | 件 | 20 商品 | | |
| 事業費 2022 年: 250 万円 2023 年: 250 | | | 50 万円 2023 年: 250 万円 | 2024 年 | : 250 万円 | | |
| 継続に向けた「うまいものセレクト」ブランドの魅力を高 | | | | あるために | 新商品の開発 | | |
| 事 | | | | 販販売を行う。販売収入還元制原 | 度の PR を合 | わせて行うこ | |
| | | | とで、商品の | 付加価値を高め、更なる開発に | 繋げていく。 | | |
| | | | | | | | |

(7) -6 普及啓発

(事業番号6-A)

| (十) | 未留万 | 0 – | Α) | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----|---------|---------------------------|---------|------------------|--|--|
| 3 | 事業名 文化財を次世代に繋ぐ体験事業 | | | | | | | |
| | 概要 | | 日本遺産の | メインストーリーを体験出来る | 教育旅行プ | ログラムを創 | | |
| | 出し、日本遺産の普及啓発、周知 PR を実施する。 | | | | | | | |
| | | 取 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 | | |
| | 宿坊 | 体験 | 型教育旅行誘 | 関東を目的地とした東北地区、東 | 海地区から | 伊勢原市日 | | |
| 1 | 致事 | 業 | | の教育旅行をターゲットとして、継 | 続した教育 | 本遺産協議 | | |
| | | | | 旅行誘致を実施する。 | | 会 | | |
| | 宿坊 | 体験 | 型教育旅行受 | 教育旅行の関係者との調整を行い | 、受け入れ | 伊勢原市観 | | |
| 2 | 入事 | 業 | | 体制を整える。合わせて、地元関係者 | fと連携して | 光協会 | | |
| | | | | 新たな体験メニューなどの創出を行 | う。 | ル 励 ム | | |
| | サブストーリーを活用 | | | サブストーリーの整理を行い、体験コンテン 伊勢原で | | | | |
| 3 | りした体験コンテンツの | | | ツを造成し教育旅行に活用することで、エリア | | 本遺産協議 | | |
| | 追加 | | | 周遊を促す。 | | 会 | | |
| | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | Ŧ | | | 事業評価指標 | 実績値・目標値 | | | |
| | 9年 | | | <u> </u> | 0 校 | | | |
| | 0 年 | 各年 | 度の宿坊体験型 | | 2 校 | | | |
| | 1 年 · | | | | 4 校 | | | |
| | 022 年 教育旅行の学校受入れ校数 | | | | 4 校 | | | |
| | 2023 年 教育旅行の学校受入れ校数 | | | | 5 校 | | | |
| | 2024 年 教育旅行の学校受入れ校数 6 校 | | | | | | | |
| | | | | | | : 100 万円 | | |
| 継続に向けた 宿坊体験型教育旅行は、伊勢原市観光協会と | | | | | | 会旅館組合が | | |
| 事 | 事業設計中心になって、継続した事業実施を進めている。 | | | | | | | |

(7) -6 普及啓発

(事業番号6-B)

| | 未留写 | | · | 1 4 # 1 | | |
|--------------------------------------|-----------------------|-----|-----------|-----------------------|-------------------|--------|
| | 事業名 | | | | | |
| | | | | の調査結果などをいかして、市民 | そへの普及啓 | 発事業を実施 |
| | | | する。 | | | |
| | | 取 | 双組名 | 取組内容 | | 実施主体 |
| | 構成 | 文化 | 財の調査研究 | 構成文化財の一つである「宿坊」の | の重要な建造 | |
| 1 | | | | 物や「大山能」の能面や装束の調査 | を進め、文化 | 伊勢原市 |
| | | | | 財登録を目指す。 | | |
| | 大山 | 能親- | 子教室 | 構成文化財の「大山能」の次世代へ | への継承を目 | 伊勢原市 |
| 2 | | | | 的に、幼稚園児から中学生を対象と | とした謡や仕 | 大山阿夫利 |
| | | | | 舞を学ぶ講座を実施する。 | | 神社 |
| | 構成 | 文化! | 財を活用した | 文化財の調査結果を活用し、日本 | は遺産ストー | 伊勢原市 |
| 3 | 展示 | 会 | | リーの普及啓発のために公民館や構成文化財内 | | 構成文化財 |
| | | | | での展示を実施する。 | | 所有者 |
| | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 左 | Į. | | <u> </u> | 事業評価指標 | 実績値 | ▪目標値 |
| 201 | 9年 | | | | 5名 | |
| 202 | 0 年 | 大山 | 能親子教室への | の参加者数 | 中止 | |
| 202 | 1年 | | | | 6名 | |
| 202 | 2年 | 大山 | 能親子教室への | D参加者数 | 15 名 | |
| 202 | 3年 | 大山 | 能親子教室への | D参加者数 | 20 名 | |
| 202 | 24年 大山能親子教室への参加者数 25名 | | 25 名 | | | |
| 1 | 事業費 | Ì | 2022年:40万 | 5円 2023年:40万円 | 2024年:4 | 40 万円 |
| 継続に向けた構成文化財である「大山能」の装束や能面の文化財登録を進める。 | | | | を進めること | | |
| 事 | 業設 | 計 | で、文化的価値 | 値を高め、大山能教室への参加者 | 皆の増加に繋 | ば、次世代に |
| | | | 継承すること | で、保存と継承の循環を目指す。 | o | |
| | | | | | | |

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

| 1 | 事業名 | 1 | 情報発信 PR 事業 | | | | |
|------|---|-----|------------|-------------------------------|------------------|------------------|--|
| | 概要 | | 市の旧や3 | SNS を活用して新たな情報発信を | 進めるとと | もに、観光 PR | |
| | | | や文化財イベ | ントなどで、日本遺産の PR を進 | É める。 | | |
| | 取組名 | | | 取組内容 | | 実施主体 | |
| | 日本 | 遺産 | サブストーリ | 比々多エリア、日向エリアの構成 | 文化財や、無 | 伊勢原市日 | |
| (1) | 一紹 | 介のI | 取組 | 形文化財のサブストーリーの整理を | そ行い、WEB ペ | 本遺産協議 | |
| | | | | 一ジでの解説を行うとともに、体馴 | 食コンテンツ | 本 退 庄 励 哦 会 | |
| | | | | の紹介や案内を行う。 | | A | |
| | 日本 | 遺産 | 割知物品の | 本日本遺産の PR で活用している | 「ミニ納め太 | 伊勢原市観 | |
| | 新規 | 作製 | 及び更新の取 | 刀」や「布招き」、「パンフレット」だ | などの周知物 | 光協会 | |
| 2 | 組 | | | 品の時点修正などを検討し、更新を | 行う。また、 | 伊勢原市日 | |
| | | | | 合わせてサブストーリーの体験コン | ノテンツに活 | 本遺産協議 | |
| | | | | 用する物品の作成を検討する。 | | 会 | |
| | | - | 博物館の創設 | 調査した文化財を生かして、デジ | | | |
| 3 | に向 | けたね | 倹討 | ┃の検討を進め、いせはら文化財サイトでの新規 ┃ 伊勢原市 | | | |
| | | | | コンテンツの作成を目指す。 | | | |
| | 外国 | 人向(| ナ WEB ページ | 外国人向けの情報発信として、令和3年 11 月 | | | |
| 4 | の拡 | 充 | | に解説した英語版いせはら文化財サイトのコン 伊勢原市 | | | |
| | | | | テンツを追加し利便性の向上を図る | , , | | |
| 左 | Ŧ | | = | 事業評価指標 | 実績値 | ・目標値 | |
| 2019 | 9年 | | | | , | ージビュー | |
| 2020 | 0 年 | いせ | はら文化財サイ | イトのページビュー数 | 92, 750 ~ | ージビュー | |
| 202 | 1年 | | | | 100, 348 ~ | ージビュー | |
| 202 | 2年 | サブ | ストーリーの約 | 紹介よるページビュー数の増 | 105, 000 ~ | ージビュー | |
| 2023 | 2023年 サブストーリーの体験コンテンツの紹介によるページビュー数の増 110, | | | 110, 000 ペ | ージビュー | | |
| 2024 | | | | ージビュー | | | |
| | | | | | : 25 万円 | | |
| | に向 | _ | | <u>ついては、HP や SNS は伊勢原</u> 市 | | | |
| | 事業設計 議会と市が連携して、事業実施を進める。また、観光の入口となる観 | | | | | | |
| - | | | | 文化財の WEB ページとも相互に | | | |
| | | | | | | | |